

## 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム天王園		
所在地	周南市大字大河内1109番地の2		
電話番号	0833-91-6739	事業所番号	3577300407
法人名	社会福祉法人 一仁会		

訪問調査日	平成 20 年 5 月 29 日	評価確定日	平成 20 年 9 月 1 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

### 【情報提供票より】

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	10 人	常勤 3 人 非常勤 7 人 (常勤換算 6.5 人)	

#### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

#### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 15,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
その他の費用	月額	23,000 円		
	内訳	光熱水費 15,000円 教養娯楽費 3,000円 日用品 5,000円		

#### (4) 利用者の概要 (4月14日現在)

利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	0	要介護 4	1
	要介護 2	4	要介護 5	
	要介護 3	3	要支援 2	1
年齢	平均 87.7 歳	最低 78 歳	最高 93 歳	

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 佐藤医院 香田整形外科 歯科 利用者のかかり付け歯科医師
---------	------------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)  
同一敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、介護支援センターを併設し、協力体制も確立しており、リフト浴、看護師の指導・研修や夜間救急時の応援体制など、安心・安全と一貫性のある福祉サービスが提供されています。職員の異動も少なく、利用者も固定されているので馴染みの関係が構築されています。花見やドライブ、日帰り旅行などの外出の機会やホーム内の行事が幅広く計画され、利用者が楽しみながら生活できるよう配慮されています。

(特徴的な取組等)  
地域行事へも積極的に参加し、児童クラブ、音楽や押し花絵、紙芝居などのボランティアの支えもあり、午前中に開催された時は、事業所で共に昼食を囲みながらふれあいを深めます。緊急時の地域への連絡体制が出来上がっており、連携や地域の支援体制の構築が進められております。

### 【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)  
介護計画のモニタリングは3ヶ月毎に行い、6ヶ月毎に新たな介護計画が作られていますが、アセスメントの方法に課題が残されています。運営推進会議の構成メンバーは地域住民からも多数の方が参加され、総勢15名で開催されています。

(今回の自己評価の取組状況)  
自己評価表を全職員へ配付し、各自で自己評価を行った後、月1回の気付き会議で職員全体で検討し、共通理解を深めました。

(運営推進会議の取組状況)  
市福祉課長、社協支部長、幼稚園長、民生委員、自治会、学識経験者、ボランティア等地域の人達を中心に15名で構成され、会議は2ヶ月に一回開催されています。災害、避難等緊急時の対応についての提言もあり、行事や外出時の援助の申し出等、安心安全への配慮やサービス向上に向けた協力の申し出があります。

(家族との連携状況)  
毎月、利用料請求に併せて、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理状況を通知しています。年4回発行するホーム便りで事業所の情報提供も行ないます。大半の家族が利用料を持参されるので、その機会に話し合い、苦情や家族の訴えは、誠意を持って相談に応じています。法人の広報誌が毎月作られており、今後は法人の広報誌も送付を予定しています。

(地域との連携状況)  
自治会には加入していませんが、夏祭り、運動会、カラオケや詩吟の発表会等公民館や自治会行事に積極的に参加しています。事業所へは、地域のボランティアも来られ、押し花絵や音楽、紙芝居等を楽しみ、昼食を共にしながら交流を深めます。ホーム便りや法人の広報誌は市役所支所にも置かれ、地域の理解が深められるよう配慮しています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、理念のひとつに「地域に馴染む暮らし」と標榜し、事業所独自の理念としている。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は、玄関ホール、事務室へ掲げ、職員お互いが共有し、勉強会で確認し合うなど、実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会には加入していないが、夏祭り、運動会、カラオケや詩吟の発表会等の公民館や自治会行事に参加している。ホームには押し花絵、音楽、紙芝居等の地域のボランティアも来られ、昼食を共にしながら交流を深めている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を全職員へ配付し、各自で自己評価して月1回の職員会議(気づき会議)で検討し共通理解した。評価結果もこの会議を利用し、改善策を検討している。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	会議は2ヶ月毎に開催し、市福祉課長、社協支部長、幼稚園長、民生委員、自治会役員、社会福祉士、ボランティア等15名で構成され、事業所内の行事や外出時の車椅子介助等、協力したいとの申し出もあり、サービスの向上にも関わっている。	
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市から介護相談員の派遣を受けている。必要に応じ市町とは密接に連携し合い、サービスの向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ホーム便りは年4回作成し情報提供している。暮らしぶりや健康状態、金銭管理状況は、毎月の利用料請求時に利用者の一人ひとりに知らせている。緊急時には電話連絡など相談報告もする。利用料は事業所へ直接持参する家族が多く、来園時にも報告・相談を行い、意思の疎通を図っている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談や苦情を受け付ける窓口や職員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きも明確にしている。法人内では第三者委員が選任されているが、重要事項説明書などへの記載が無く、周知されていない。	・第三者委員の明示と利用者及び家族への周知
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事など状況に応じた対応が出来るよう配慮しており、緊急時又は職員の急な休み等は職員同士で話し合いの上、勤務調整している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は少なく、利用者の入れ替わりは4名で、馴染みの関係が保たれている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で月一回の研修会を開催し、専門医による認知症の研修にも段階的に取り組んでいる。外部研修にも出来る限り参加できるよう配慮している。法人の広報誌作成や行事の企画立案にも関わってもらい、職員のやる気や達成感に繋がる取り組みにも努めている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域のグループホーム連絡協議会に属しており、管理者は意見交換や情報交換会、研修等へ参加出来たが、職員は時間的な都合がつかず参加出来なかった。	・職員参加の機会を確保

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用前に出来るだけ見学や体験をしてもらっている。体験ができなかった場合は、家族とも相談しながら、職員が事前に家庭訪問や入所施設で顔合わせやアセスメントを行って顔なじみの関係を作り、安心してサービスが利用できるよう工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は経験豊かな利用者から多くのことを学びながら共に生活し、支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>利用者との日々の関わりを大切にしながら、思いや意向の把握に努めている。訴えはゆっくりと傾聴し、訴えない利用者には「気付き会議」で本人本位に援助出来るよう検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>各職員が利用者一人づつを担当しており、各担当が家族の意見や希望、モニタリングを参考に原案を作成、「気付き会議」で話し合いながら利用者本位の介護計画を作成している。介護計画作成に係るアセスメント票は使用していない。</p>	<p>・アセスメント票作成について</p>
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月ごとにモニタリングを行ない6ヶ月毎に介護計画を更新しているが、状況に変化が生じた場合は職員で随時話し合い対応している。計画作成担当者が介護職員を兼務しており、業務繁多の時には計画書として記載していないこともある。</p>	<p>・計画作成時間の確保</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>病院受診や外出など、利用者の希望に添えるよう柔軟に対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員、連携医院がかかりつけ医となっており、月1回、診察を受けている。専門外の受診は、主治医の指示により、適切な医療が受けられるよう支援している。必要に応じ併設の特養の看護師が健康観察や健康相談を行い、緊急時にも備えている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルケアは行っていない。重度化した場合は、家族、主治医の意見を参考にして、併設の特養等へ移ってもらうようにしており、家族とは入所時、その旨、取り決めをしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	日常の言葉かけや対応等で、プライバシーの確保には十分配慮している。記録等個人情報の管理も配慮されていた。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日のスケジュールの中で、一人ひとりのペースを大切にしながら、利用者の希望に添った暮らしについて支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	管理者は、管理栄養士の資格があり、食への配慮が伺われた。3食とも事業所内で調理し、利用者の力量に応じ下ごしらえや、盛り付け、配膳、下膳をしている。職員は利用者と同じ食卓を囲みながら、さりげなく話題提供や見守り、食事の介助をしていた。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者全員が入浴介助が必要であるが、なるべく希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。2名は併設特養でリフト浴を利用している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ボランティアによる押し花絵や音楽などを楽しみにしており、切り干し大根づくりや餅つき、海苔巻き作り等の季節の行事を大切にしながら楽しみごとの支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個人的な外出や買い物を希望する利用者はいないので、1~2名で散歩に出かけたり、事業所の家庭菜園へ出かける等、個別に対応し、気分転換を図っている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	拘束や抑制のないケアについて職員は理解しているが、介護上の安全を確保するためにやむを得ない場合は、家族の了解を得た上で、車椅子抑制ベルト、ベット柵を利用している。	・拘束、抑制しない介護の工夫
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	以前は、常時徘徊する人がいて、職員が目が届かない時間帯は、利用者の安全に配慮し、玄関は施錠することもあったが、現在はいいないので鍵はかけていない。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒や窒息時の対応、応急処置、蘇生法についての研修を実施している。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応について、マニュアルに添って勉強会をしたり、蘇生術の講習会も実施している。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	日頃から地域の人々の協力が得られるようお願いし、事業所のすぐ近くの家を第1通報窓口にした町内への連絡網が作られている。月1回、防火訓練を実施し、防火や避難の方法が身に付くよう努力している。地域の避難場所も確認している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬管理簿を作成し、いつでも閲覧して確認できるようにしている。必要な情報は必ず医師や看護師へフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	特に夜の口腔ケアに気をつけて、声かけや自分で出来ない人には職員が支援している。毎週日曜日には、義歯を洗浄液に浸けて消毒している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量や栄養バランスは大よそ把握し、記録されている。水分量は不足しないよう毎食事時、10時、3時、入浴後は水分補給を行ない、お茶が欲しい人はいつでも飲めるように配慮している。有熱時の水分摂取に留意している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症対策マニュアルに添って対応しており、毎朝、ホールやトイレの手すり、ノブを塩素系消毒剤を用いて拭き、感染防止に努めている。出入口に手指消毒器が準備されていた。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は不快な音や光はなく、明るく居心地よく過ごしやすい。四季折々の季節感のある飾りつけが行なわれており、押し花絵などの利用者の作品が飾られている。中庭に燕が巣を造り、利用者みんなで子育てを見守っていた。季節感、生活感を感じ、共通の話題も持てるよう工夫されている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には洗面所やクローゼットが設えてあり、便利に作られている。本人や家族と相談しながら本人の馴染みの物を持参してもらい、馴染みのある自室で居心地良く過ごせるよう配慮している。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム天王園
所在地	周南市大字大河内1109番2
電話番号	(0833)91-6739
開設年月日	平成14年12月1日

## 【実施ユニットの概要】 (4月1日現在)

ユニットの名称	グループホーム天王園			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 0名	女性 9名	
	要介護1		要介護4	1
	要介護2	4	要介護5	
	要介護3	3	要支援2	1
年齢構成	平均 87.7歳	最低 93歳	最高 78歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	事前に職員に自己評価票を配布して各自で検討し、勉強会で問題点を話あった。その後、管理者が確認しながら自己評価票を作成した
評価確定日	平成20年4月21日

## 【サービスの特徴】

緑に囲まれた小高い丘の上に、法人として一貫性のある福祉を目指し、特老、デイサービスセンター、支援センターの側にグループホームが建設されています。健康で明るく楽しく家庭的な雰囲気の中で、のんびり生活してもらっています。四季折々には手作り弁当を持って、自然を楽しみに出掛けています。ホームの中での楽しみは、個々人で作る恵方巻き、春には草餅作り、一杯の美味しいビールのビアガーデン、冬の切干大根作り、忘年会、、等を職員と一緒に楽しめる様に工夫しています。食事作りも、皮むき、豆のさや取り、大根卸、牛蒡ふき、等できる事を手伝ってもらって3食ホームで作っています。又、入所者には自分の活かせる力を活用していただける介護に努めています。

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		理念を大切に介護に努めている
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		職員、外部の方も見えるところに掲示して取り組んでいる
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		経営状況、次年度の取り組みなどについては話あっている
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		職員からの意見としても「お互いに熱意を持って取り組んでいる」と回答あり
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		地域の行事には出来る限り参加させていただき交流を保ちたい
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		しっかり出来ている
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		入所者も高齢化して来て全員参加が難しくなりつつあるが、地元の方々との交流の場として参加させていただきたい
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		時々ホームの知人を訪ねてサービスを利用された方が来られるが、自分が分かってもらえなかったり、話が通じなかったりするので頻度が少なくなった

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各自で自己評価をして気づき会議で検討し、理解を深める結果についても話し合い改善策を考える	月1回の気づき会議を大いに利用して検討している
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	連絡会議1年でもありまだしっかり評価への取り組み状況まで行っていない	今年からは利用者、職員も一緒になって取り組める連絡会議にしたいと考慮中
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要に応じて対応してもらっている	今まで通りでよい
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	権利擁護利用者が1名あり、担当者とは常に連絡を取りあって当事者の援護に努めている 職員にも気づき会議において勉強の機会を設けた	今まで通り援護して行きたい
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会等に参加し気づき会議において複伝している お互いに入浴時などにおいて入所者の身体観察を行い防止に努めている	今まで通りの様子観察で行きたい
福伝			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族と良く話し合い十分な理解をいただけるように努めている	おおむね出来ている
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの訴えは「病院に連れて行ってくれ」「帰らせてくれ」といった内容が多く、可能な限り対応はしているが、その場の会話での対応になるときもある	出来る限りのことは対応している
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月利用料送付の時に、状況報告、相談事、金銭管理台帳コピー等を個々に報告している	ご家族の方から良く状況が分かりますと言われる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	開示要求がある場合は提示している 今迄に1家族ありました		体制は整えている
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	ご家族からの訴えに対しては誠意を持って相談に応じ、施設長の判断を受け運営に反映している 施設内で処理できない時は外部機関での処理を明確にしている		体制は整えている
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回勉強会を設けお互いのコミュニケーションを図っている		以前に比べて具体的な意見交換が出来るようになった
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	対応できていると思う 家族が入院、退院時に付き添えない時等は職員が対応できるように配慮している		家族の要望には出来る限り親切な対応に、職員一丸となって取り組める体制を何時もとって行きたい
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今の時点に置いて職員の交代も少なく馴染みの関係は図れていると思う		利用者は職員の顔を見分けることが出来る
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	出来る限り研修機会を確保するように努めている 法人内でも認知症の勉強会が段階ごとに行われている		出来る限り研修機会は確保したいと思うが、勤務時間の都合等で困難な事も多い
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	多様に利用者の暮らしに対応出来ていると思う		常に心掛けて行きたい
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今年度は職員が相互訪問をする機会はなかった 管理者はお互いの意見交換、相談の為に訪問があった		職員とも他施設の訪問、意見交換の機会を作りたいが時間的余裕がないのが現実年に1回位の機会は設けられる様に努めたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		職員の反応 利用者の良い所を見てストレス軽減に努めている 公休を利用してストレス軽減に努めている
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		常に状況判断しながら個々の向上発展に努めたい
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		理事長、園長の定期的な訪問で職員の業務に対する心構えを把握してもらっている
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		家族の方が本人には黙って入所させられるケースがほとんどである 入所後帰宅願望になり、その介護に苦慮する事もある
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		入所後も介護に関して不安なこと、分からない事は家族に聞いている
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		入所順番が近くなると、入所希望者の状況把握に努める
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		グループホーム入所の際も体験される事は歓迎している
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		人生経験、ケアの方法、職員のその時の態度に対する反応、、等、勉強させてもらう事が沢山ある

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		お墓参りにお連れする時は事前に家族に伝え、お墓掃除をお願いする (お嫁さんとの関係が少しずつ良くなった)
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		現実をしっかりと受け止めながら、入所者と家族の関係がいつまでもより良いものである様に努めたい
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		これからも出来る限り取りいれて行きたい
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		普段は黙って生活して居られる利用者の方が、自分の苦手な相手に対しては「ありゃあきらい」と、はっきり言わたり、足で突付いたりされる事があるので、職員は状況をしっかりと把握する事に努めている
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		隣接に入所された方には声掛けをしたり職員は行っている
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		主張が強く職員が一人対応に追われている時は、他の職員は他の利用者が不満にならない様にケアに当るように努めている(あまりの強さに不穏な雰囲気になる時もある)
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		知り得た情報は勉強会で報告したり、連絡帳に記載して共有するように努めている
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		日々の状況を判断しながら総合的介護が出来る様に努めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族との話し合いはない 家族が面会に来られた時に要望を聴くようにしているが言われる方は少ない 職員の話し合いで介護計画を作成している	家族からは「寝たきりにならなければ、」を言われるケースがある 意向に沿えるよう努めたい
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じた見直しは行っているが、介護計画作成まではなかなか出来ない	介護計画作成時間がほしい
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々個別のケアの状況、様子観察を個人のファイルに記録して共有している	共有した情報は日々の介護に生かされている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の要望で「子供に合いたい」に対してはホームに来てもらっている 家族の要望で「病院受診、権利擁護担当者との対応」については柔軟に対応している	出来る事はいろいろな側面から要望に沿った対応をしている レンタル介護用ベッドの手続き代行
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、ボランティアの方の協力体制はある(外出行事の協力、ホーム内での話し協力) 文化関係では詩吟やカラオケ同好会の方からのお誘いを受けている	地域の福祉委員さん達からの協力の声もかかっている 消防署は職員の緊急時対応の為の勉強会に協力してもらっている
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域に開放できる体制はとっている(家族、ボランティア等の見学を引き受けている)	地域ボランティアの方々には協力してもらうことで認知症への理解を深めてもらっている
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	していない	必要に応じて行う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		権利擁護担当者とは毎月連絡を取り合っ て情報を共有している
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		治療に関しては必ず家族の了解をもらい、 治療後は必ず報告をしている
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		法人全体で認知症専門医の勉強会が開 催されている。その様な機会を利用して行 きたい
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		利用者の健康管理に十分配慮してもらっ ている
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		(最近)骨折入院された時入院先の看護師 の方、リハビリの方とも連絡を取り合っ て退院後のケアについて相談に乗って もらった
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		家族と良く相談しながら時期を決めている
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		今はターミナルケアを行う予定なし
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		本人が家庭で使用されていた寝具類、整 理タンス等を持参して頂き住み替えによ るダメージを少なくしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーの保護に十分配慮している</p> <p>声掛けにおいては損ねる様な言葉掛けもあると思う</p>	<p>職員は理解はしているが、馴染の関係が出来ているが故に出る言葉もある</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>出来る限り衣服等は自分の意思で決めてもらう</p> <p>なるべく入所者の理解度に合わせた説明をして、自分で決めてもらうように努めている</p>	<p>衣類の選択、行事参加等本人の意思を大切にすることに努めている</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>できる力を大切にしている</p> <p>(牛蒡ふき、豆の筋とり、玉葱の皮むき、大根卸、洗濯物干し、洗濯たたみ、軽い掃除の手伝い、ごみ包み新聞たたみ、廃布作り等)</p>	<p>入所者の気分に合わせてお願いしている</p>
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>朝は職員の1日の仕事が集中するので、職員側の都合を優先する。10時以降3時頃までは利用者との時間を大切にしている</p>	<p>一人ひとりの対応は困難な状態がある</p> <p>(ひとりの場合は読書をしてもらう。皆との場合はビデオ鑑賞が多い)</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容院に以前は行っていたが車椅子の方が多くなり、引率職員がひとり居なくなるとホームでの介護に支障が出来る為訪問美容をお願いしている</p>	<p>好みを聴きながら対応してもらっている</p>
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>下処理や、配膳、下膳を手伝ってもらっている</p>	<p>餅つき、節分の海苔巻き作り、切干大根作りの時はなるべく全員参加に努めている</p>
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>日常的に楽しめるように支援はしていない</p> <p>お酒は新年会、ピヤガーデン、忘年会に出している</p>	<p>家族の方が持参されたおやつを一度に食べたお腹をこわしたことがある。本人は忘れてカビは生えた事がある等からなるべく職員が管理する様にしている</p>
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>出来る限り紙パンツ使用を減らす様に勉強会等で話あってはいるが、個々の排泄パターンをしっかり把握しての介護支援は出来ない</p> <p>必要な人には排泄表を記録して対応している</p>	<p>10時、12時、3時、5時(日勤帯)をめどに排泄誘導をしているが、個々のパターンはしっかりつかめていない</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		中間浴対応の必要な方は特老で入浴している
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		入所者の様子を観察しながら休息をとってもらい、夜間も不穏な時は会話と一緒に時を過したりの対応をしている
り			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		今行っている支援を大切にしたい
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		外出時にお金を使う機会も無く、お金に対する気持ちも薄らいで来ている(年金に対しては有難いと思っている)
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		自分から外出を希望する方は居ないが、事務所側の都合で少数での外出は喜ばれる
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		取り組んで行きたいが今の勤務体制では困難
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		今の状態を維持して行きたい
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		利用者大切な時間を過してもらえらる様に居室、ホールの場所を考慮しながら対応している
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		以前に居室に宿泊された方があった

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	家族参加の外出、年2回の家族会を入所者と楽しんでいる		今の状態を維持して行きたい
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	職員は理解しているが介護上に置いてやむ負えない場合は家族の了承を得て車椅子抑制ベルト、ベッドの柵を利用している		家族に身体抑制に関する説明を行い、同意書をもっている
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は理解はしているが常時徘徊があり、職員の目が届かない時間帯は鍵をかける事もある		家族の方々、他の部署の職員等にも理解してもらい行っている
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士で声掛けを行いながら入所者の所在や様子観察、安全面に配慮している		職員はその場を離れる時は必ず声掛けをして入所者の様子を伝える様にしている
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個人の使用物等で危険になったものは本人にまず了解をもらってから取り除く 全体的な物は危険を感じた時に取り除くようにしている		今の状態を維持していく
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	看護師の方に転倒した時、窒息した時等の対応、応急処置について話してもらう機会を作っている 毎月火災に対する防火訓練を実施している		今の状態を維持していく
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルに添って勉強会をしている その中で蘇生術の講習会も行っている		今の状態を維持していく
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書、ヒヤリはっと報告書を共有し常に関連できる所に置き、勉強会等で事故防止の為の話し合いをしている		今の状態を維持しながら事故防止に努める

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		ビヤガーデンに来ていただいた折、連絡会議等でお願いを重ねていく
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		これからも入所者の行動パターンを観察しながら、起こりうるリスクを見つけ事故に至らない様に努めていく
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		様子をよく観察した上で看護師に相談して対応をしてもらう
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		今の状態を確実にを行い、医師、看護師と連携を図って行きたい
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		個々の健康管理に配慮した介護して行きたい
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		毎食ごとに口腔ケアが出来ればよいが、朝は夜勤者一人なので困難と思う。出来れば昼食後に行なっていけるようにしたい
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		食事量については個人的に減らすことが難しい人もいる
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		感染症への対策として入所者、職員の手洗い励行を実行している
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		常に安全で安心して食して頂けるように配慮しながら調理している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホール前の花畑には四季を通して花が咲いているように努め、足を止めて近隣の人も見えていただけるようにしている お花の前で近所の方と写真を撮ったりしている	今の状態を維持しながらもっと工夫をしていきたい
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	四季折々の花をホール内に生け、中庭にも桜等大きく生けている 雛段飾り、クリスマスツリー等も飾り季節感、生活感を出すようにしている 入所者の作品も掲示して共通の話題にしている	いつも心地良く生活していただけるように配慮に努めている
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室にソファー、廊下と玄関に長椅子を置き入所者が思い思いの所で寛げるようにしている	又、個室で食事したい時は出来るようにしている
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人の馴染みの物を持参してもらっている 自分で出し入れが少し位バラバラでも出来る方には行なってもらい、自分なりの居心地良さを感じてもらう	なるべく自分で片付けを行なってもらうようにしているが、車椅子対応の方が多くなり職員がすることが多いが、入浴の際の着替え等は一緒に出すようにしている
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	排泄臭については直ぐに換気するように気を付けている 定期的に消臭剤の交換を行なっている 温度調節も状況に応じた対応で配慮している	違和感のない環境作りをするように努めている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	ホール内に手すりを設置 居室には入所者にあつた手すりを設置 トイレ、風呂場にも安全と自立保持の為に手すりを設置 居室には段差解消にも工夫している	安全、自立保持を考慮し生活し易いように工夫をして行きたい
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入所者の状態を常に把握しながら事故の無いように、又、混乱しないように入所者と相談しながら居室の配置を考えている	車椅子対応になり所持品が多くて危険な状態になったので整理棚を購入して片付けた 混乱は無かった
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外に長椅子を置いて気分転換が出来るようにしている	花畑の花を觀賞してもらう

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない